〔運歩色葉集 葉〕棉(ハンサウ)

〔撮壤集 中家具〕棉(ハンサウ)　匜 同　半插 同

〔皇大神宮儀式帳〕御食神祭物部、○中略 御波佐布卌二口、

〔大神宮儀式解 十八〕御波佐布は、御匜也、棉の字をも用ゆ、○中略 和名波爾佐布といへば、波左布は半插(ハサウ)の義をしるべし、此物土師器なるは諸書に見ゆ、又陶器にも見えて、造酒式、陶匜六十口と見ゆ、

〔秋齋間語 一〕はざうは、湯水をつぐ物にて、俗にいふ湯桶の類なり、これにゆにても水にてもつぎて、たらゐへうけさする物なるに、近年○寶暦年間はぐろめの具にたらゐをあやまりて、はざうといふはいかゞ、堂上方元服の調度、官僧儀式の器物に、はざうといふはゆつぎなり、いはんやはんぞうとよこなまれるをや、

匜製作

〔延喜式 十七内匠〕伊勢初齋院裝束

棉(半插)一合、高一尺、周二尺四寸、料漆七合、絹一尺、綿七兩、細布二尺、掃墨四合、燒土五合、單功六人、

匜種類

〔延喜式 四十造酒〕雜給料○中略

陶匜六十口

〔延喜式 五齋宮〕造備雜物

塗漆匜一口

〔延喜式 四十造酒〕鎭魂祭料○中略

小匜四口

〔空穗物語 菊の宴 一〕かくてきさいの宮賀、正月廿七日にいでくる、おとねになんつかまつり給ける、まうけられたるもの、○中略 御てうづのてうど、○中略 しろかねのはんざう、○下略